

# 大学も退学なのか

# 加害選手ごじりになる

きのう(22日)、日本 ことについて、監督やコーチの指示がありながらと決めたことについて、いよいよ堂々としていては、記者クラブで悪質タックル問題について謝罪会見も「自分で判断できなかつた弱さ」だと悔しさを吐いた宮川泰介選手に同情的な声が集まっている。にじませた。

宮川選手は、謝罪の意 顔や氏名を公表して宮川選手自らが会見を開いた経緯や、競技から退く公表。悪質な反則をした



# タックル選手の会見で

# 真相が見えた



日大アメフト部のタックル問題で「加害者」の宮川泰介選手(20)が会見を開き、真相解明に大きく近づいた。はたして内田正人監督(62)と井上奨コーチ(30)に司直の手は伸びるのか。内田監督を重用してきた大学幹部にも騒動の余波が及ぶ可能性が出ている。

# 日大アメフト問題で注目される

# 警察の動きとワンマン理事長体制



頭は下げたが... (内田監督)

「逮捕を免れたとしても注目は監督が試合直後、書類送検はあり得ます」とメディアに「あれくらいと指摘するのは弁護士の篠原一廣氏だ。」

「事件となれば、警察は監督とコーチに複数回の事情聴取を行うでしょう。彼らが指示している音声がなくても周囲の選手が会話を聞いていれば証拠になる。警察は選手を一人ずつ聴取して外堀を埋めていくはずだ。」

宮川選手は「事件となれば、警察は監督とコーチに複数回の事情聴取を行うでしょう。彼らが指示している音声がなくても周囲の選手が会話を聞いていれば証拠になる。警察は選手を一人ずつ聴取して外堀を埋めていくはずだ。」

「速捕を免れたとしても注目は監督が試合直後、書類送検はあり得ます」とメディアに「あれくらいと指摘するのは弁護士の篠原一廣氏だ。」

「事件となれば、警察は監督とコーチに複数回の事情聴取を行うでしょう。彼らが指示している音声がなくても周囲の選手が会話を聞いていれば証拠になる。警察は選手を一人ずつ聴取して外堀を埋めていくはずだ。」

# 集まる同情論

リーグ(NFL)に一番近い男と言われた栗原選手も、自身のツイッターに、「彼は真実を話した。大人が逃げるな」と宮川選手を擁護するコメントをした。

その一方、日大に対しては、「日大を潰せ」とこの大学は学生のことなんて考えていない」との批判がスラリと並んだ。

今後、宮川選手はどうなるのか。退部にとどまらず、自主退学に追い込まれるのではないかと、内田監督はアメフト部だけになく、日大全体に絶大な力を持っている。もし大人のせいであるならば、許されない話だ。(関連記事30ページ)

宮川選手の会見でハッタリ。監督だけでなくコーチもグルだったことになり、井上コーチの関与も明らか。川選手は試合前日、井上コーチから内田監督の意向として「相手のQBの選手をワンプレー目だけぶせば試合に出してやれ」と言われ、「できませんでしたじゃ、すまされないぞ。わかっている」と急押しされたとしている。さらに内田監督から「やらなきゃ意味ないよ」と言われたことも明らか。

ケガを負った関西学院大の選手の父親はすでに警察に被害届を提出し、宮川選手の会見を受けて「刑事告訴も検討せざるを得ない状況だ」とのコメントを出した。捜査はどう進むのか。

問題は警察がどこまでやるかだ。元検事の落合洋司弁護士は18日付の本紙で、「監督と選手が傷害の共謀共同正犯で逮捕される可能性がある」とし、暴力行為をためらっている選手を監督が脅して違反行為のタックルをさせたとなれば選手が懲役8月、監督が1年2ヶ月の判決になるとの見方を示している。

この期に及んで日大の企画広報部はきのう(22日)、ハコチから「1プレー目(相手の)QBをつぶせ」という言葉があったという事実は事実です。ただ、これは本学フットボール部においてゲーム前によく使う言葉で、「最初のプレーから思い切って当たれ」という意味です」との釈明コメントを発表した。何が何でも悪意を否定しようというわけだ。

田中理事長を筆頭に現執行部に批判が集まるのは間違いない。

「内田氏の監督辞任で問題をかわそうとした日大執行部。一方、宮川選手は深く会見を開いて自分の非を認めた。彼が会見したのは大学が自分を守ってくれないことを痛感したからでしょう。今回の日大のやり方には文科省とスポーツ庁のほか、100万人とされる日大OBも批判の声を上げるべきです」

日大OBで政治ジャーナリストの角谷浩一氏はこう言う。